

# 日本型アカデミック・アドバイジングの挑戦⑤

第5回では、学生によるアカデミック・アドバイジングを取り上げる。日本の大学においても、学生同士による支援が導入され始めており、支援を受ける学生だけでなく、支援を担う学生に対する教育的意義も注目されている。今回は、学生によるアカデミック・アドバイジングについて、日本における可能性と課題を、愛媛大学学習支援コンソンスの清水栄子氏に紹介してもらう。

学生アドバイザーをめぐる生をその担い手とするのであれば、その妥当性が問われることになる。

日本においては、アカデミック・アドバイジング(以下、「アドバイジング」)を専門的に担う人材は必ずしも多くはなく、教職員によって担われ、支援を受ける学生と支援を担う学生双方の学びとして捉えることである。本稿では、この視点から、日本におけるアドバイザーのあり方を検討する。

ここで問われるのは、なぜ学生をアドバイザーとして導入するのかという点である。教育は大学の責務であり、本来その支援は教職員が担うべきものである。したがって、人手不足を理由に学

生アドバイザーの導入形態は、米国と日本で大きく異なっている。米国では、学生がピア・アドバイザーとして活動する仕組みが整備されている。日本では、学生による支援が一定程度広がりを見せている。日本学生支援機構(JASSO, 2023)の調査によれば、学生同士の支援を導入している大学は50・9%にのぼる。支援の内容としては、授業内外での学習サポート、履修相

## 愛媛大学 清水栄子

談、留学生支援、学生生活支援など多岐にわたっている。このうち、履修相談や就職に関する助言、学生同士の関係形成といった取組は、アドバイジングの一部として捉えることができる。しかし、これらの支援は多くの場合、個別の目的や組織のもとで実施されており、アドバイジングとしての体系的に位置づけられているとは言い難い。ま

教育活動の中で十分に整理されていない点に集約される。

第1に、学生アドバイザーの活用が履修相談に集中しがちな点である。その背景には、アドバイジングそのものが履修指導に限定されて理解されているという問題がある。本来、アドバイジングは入学から卒業までの過程において継続的に

い手として位置づける際に、結果として補完的役割として機能している場合もみられる。

第3に、支援を受ける学生と支援を担う学生の双方にとつての教育的意義が十分に整理されていない点である。双方にとつての学びとしての意義が明確にされないまま導入されている場合もある。

このように、学生アドバイザーの実践は支援する側・される側の双方に学びをもたらす、独自の教育的意義を持つ活動である。

第3に、継続的な関係形成と支援である。学生同士による信頼関係が構築されやすいことから、学生が自身の状況を説明する力、すなわちセルフ・アドボカシーを身に付けやすくなる。その結果、単発的な支援にとどまらず、継続的な関わりへとつながりやすい。

第4に、リファラーおよび連携機能である。学生の状況に応じて教職員へ適切に役割を果すとともに、学生と教職員を結ぶ橋渡し役として機能することが期待される。

# 学生アドバイザーの活用



た、米国のように体系化された研修や組織的位置づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方法や支援内容も大学によって異なっている。学生アドバイザーの導入を論じるにあたっては、まずこうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

第2に、学生アドバイザーの活用が教職員支援の代替として理解される可能性がある点である。学生を取り巻く課題の多様化や支援対象の増加に伴い、教職員の負担が増している状況がある。その役割が大学における

このように、学生アドバイザーは導入されつつあるものの、その位置づけが不明確であるために、役割や機能が限定的に理解されている状況にある。

次に、支援を担う学生にとつては、後輩学生を支援する経験を通じてリーダーシップや責任感が形成される。アドバイジングに必要な知識を事前に学ぶことで自身の学びの再構成が促され、教職員との連携を通じて組織的支援の提供が可能になる。

第2に、学習行動に関する支援である。自身が所属する学部の学びの流れや科目のつながりを経験として伝えることがで

第3に、継続的な関係形成と支援である。学生同士による信頼関係が構築されやすいことから、学生が自身の状況を説明する力、すなわちセルフ・アドボカシーを身に付けやすくなる。その結果、単発的な支援にとどまらず、継続的な関わりへとつながりやすい。

第4に、リファラーおよび連携機能である。学生の状況に応じて教職員へ適切に役割を果すとともに、学生と教職員を結ぶ橋渡し役として機能することが期待される。

学生アドバイザーの導入形態は、米国と日本で大きく異なっている。米国では、学生がピア・アドバイザーとして活動する仕組みが整備されている。日本では、学生による支援が一定程度広がりを見せている。日本学生支援機構(JASSO, 2023)の調査によれば、学生同士の支援を導入している大学は50・9%にのぼる。支援の内容としては、授業内外での学習サポート、履修相

その役割が大学における

まず、支援を受ける学

守秘義務や倫理的配慮と

第2に、学習行動に関

第3に、継続的な関係

第4に、リファラーおよ